

ベンチャービジネスラボラトリー (VBL) 2003 年度
エンジェル・スチューデント・グラント (ASG) 審査報告書

審査会開催日時:平成 15 年 9 月 30 日午後 4 時から 7 時 30 分まで

審査会場:先端科学技術共同センター1 階会議室

審査委員:佐々木孝友(工学研究科・VBL 長)

小林敏男(経済学研究科・審査委員長)

横山正明(工学研究科・研究プロジェクト推進委員長)

兼松泰男(VBL・VBL 幹事)

森 勇介(工学研究科・VBL 幹事)

< 本文 >

本年度の応募件数は、17 件ありました。工学部・工学研究科から 4 件、VBL から 4 件、基礎工学部・基礎工学研究科から 3 件、医学研究科から 2 件、薬学研究科から 2 件、理学研究科および産業科学研究所からそれぞれ 1 件ずつ、がその内訳です。

このうち 3 件は、助手および学術振興特別研究員の職にある方からの応募で、これらの中には、ASG の評価基準に照らして、素晴らしいものもありましたが(後述)、学生への研究助成、という本来の趣旨に沿わないため、審査対象からはずさせていただきました。

従って、審査対象総数は、14 件でした。

審査基準について、簡単に説明させていただきますと、

1. 所属研究室のアイデアに依拠する部分が少なく、独自性の高いもの。
2. 起業に向けての研究開発ロードマップが明確なもの。
3. 産業界への技術移転が行いやすいもの。

が、主要な評価基準です。

これらに基づき審査した結果、次の 4 件が該当研究として選定され、研究助成を受けられることになりました。

1.

工学研究科原子力工学竹田研究室所属

奥野修二

「画像のフラクタル性を利用した 3 重のベクトル量子化による、高速・低損失の不可逆圧縮、および、動画圧縮への応用」

助成額 100 万円

< 講評 >

研究室における研究とは、全く異なり、独自に技術開発が行われており、かつ市場における有用性も高い、と判断される。

今後は、本研究助成をもとに、VBL客員研究員たちとの協働によって、事業化計画を立て、起業に向けて努力されることを期待する。

2.

工学部地球総合工学科環境工学目所属

藤原和也

「アニメーションを用いた環境問題への意識向上プログラムの製作」

研究助成額 60 万円

< 講評 >

アニメーション製作に関する教育実践プログラムの開発およびその実証は既に行われており、そのプログラム内容の充実および

市場機会に関する調査に期待が持たれる。VBL客員研究員および同僚学生たちとの協働によって、これらが詳細に検討され、起業に向けての取組が充実されることを期待する。

3.

医学研究科眼科学教室所属

橋田徳康

「次世代リボソームを用いた炎症疾患に対する治療戦略」

助成額 40 万円

< 講評 >

本研究は未だマウスにおける実験の域を出ていないが、ポストゲノムにおける治療のあり方に対する真摯な研究姿勢ならびに将来における実現可能性が評価された。より一層の研究成果を期待する。

4.

VBL所属

川畑弘

「量子化学計算支援システムの開発」助成額

40 万円

< 講評 >

研究支援型の統合プログラム開発を目指したもので、ビジネス化への意欲が評価された。VBL客員研究員からは、金銭的支援より自立を目指すべきとの指摘もあり、具

体的成果をもとにした早期事業展開を期待する。

なお、ASGの趣旨から審査の対象外となったものの中で、工学研究科原子力工学専攻所属中川貴「磁気冷凍水素液化システム用磁気冷媒の開発」は、産業界への技術移転、という観点から期待も高く、VBL客員研究員たちからの協力を得て、その枠組みを模索することを期待する。

上記、繰り返し、述べてきましたが、本研究助成は、ただ単に研究費を助成する、ということではなく、起業あるいは技術移転に向けての取組の1プロセスという理解の下、VBLをサポートしてくれている客員研究員たちとの協働努力によって、いち早く成果が出ることを強く希望いたします。（以上）

審査委員長・小林敏男（経済学研究科教授）
